

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970500484		
法人名	社会福祉法人 久寿福祉会		
事業所名	グループホームおしはらの里		
所在地	栃木県鹿沼市樺山町40-2		
自己評価作成日	平成28年8月13日	評価結果市町村受理日	平成28年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自立支援を目的とした自立支援介護を実践している。その為か昨年度においては入院者も少なく、満床の割合はここ5年の間で最高の数値に至っています。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は国道沿いの利便のよい地域に位置し、敷地内には同法人のデイサービスや学童保育が併設されている。グループホームからデイサービスへと続く幅広のウッドデッキは全長約90mあり、歩行訓練や散歩コースとしても活用されている。建物に囲まれた明るく安全な広い庭には桜や梅、もみの木などの植栽があり、四季の移ろいを感じることでできる環境となっている。その環境を活かし、バーベキューや祭などを開催して、自治会の方や広く地域の方々を招待するなど、地域交流に努めている。庭では日常的に学童保育の子供たちの遊ぶ元気な声が響き、利用者との交流の場ともなっている。敷地内には畑もあり、キュウリやトマトの他、オクラやいちじくなど様々な野菜を育てており、季節毎の収穫を楽しんでいる。職員は、本人の思いに寄り添うことを心がけ、コミュニケーションを大切に日々の支援にあたっている他、自主的に近隣の清掃を行うなど、地域貢献にも努めている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成28年9月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲げた4つの理念を職員一同共有し、実践に繋げている。	職員意見を取り入れた理念は、簡潔な言葉でまとめられ、共通理解を図っている。利用者へ寄り添い「利用者を受容」し、「ニーズを探り実践に向けたケア」に努め、「安全な生活」をおくれるよう、職員は「思いやり」をもって日々の支援にあたっており、理念が実践に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、年2回の地域清掃に参加している。また、施設の行事に地域の方々・他施設の方々を招いている。月に1度ホーム職員にて地域清掃を自主的に行っている。	職員が定期的に近隣清掃を行い、地域との関係づくりに努めている。併設の学童保育との日常的な交流もあり、子供たちが庭で遊ぶ姿がみられる。パーベキューなどの行事に地域住民を招待する等、交流の機会を設けている他、小学校の運動会など地域行事へも参加できるような働きかけも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の際など、自治会長様に窓口となっており、町内の老人会・婦人会の方々を招いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を開催している。利用者の動向・活動状況を中心に話し合いを行っている。	運営推進会議は2カ月に一度開催し、行事や職員研修の報告の他、地域の取り組みや催しの情報が話されるなど、積極的に意見交換を行っている。参加者の助言や提案を取り入れサービス向上に活かしている。	より多くの方々の意見を取り入れられるよう、各専門分野の方の参加や、日中の参加が難しい家族や消防団の方なども参加しやすい日程や時間帯の工夫などの検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が主に窓口となり、市との連絡・相談をしている。また、計画作成担当の内1名のケアマネージャーが、連絡協議会に参加することもあり、担当者との協力関係を築くよう取り組んでいる。	各種相談など必要に応じて連絡を取り、情報の共有や関係作りに努めており、市の担当者とは密な連携がとれている。また、職員が市の研修会に参加するなど、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を会議で取り入れ職員の意識と理解の向上に努めた。また、可能な限り危険箇所を除いた施錠の開放を自由外に出られるよう開放している。	マニュアルを基に勉強会を行うなど、職員の学習の機会を設けている。言葉かけの配慮や、目配り気配りをすることで、利用者を尊重しつつ、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。また、支援中に現場で気づいたことは、職員同士お互いに声をかけ合い、その場での改善に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を会議で取り入れ職員の意識と理解の向上に努めた。職員間で虐待が無いよう日々利用者の表情や皮膚の確認を行い、声を掛け合うことで防止に努めた。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついている方が入所されているため、関わりを持つことでより一層理解に努める事が出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より、重要事項説明書・契約書により、十分な説明を行い、書面による契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護サービス計画書更新時に、ご家族からの要望を伺うように心掛けている。また、各ユニット玄関に御意見箱を設置。	日頃の会話から利用者の意見を引き出せるように努めている。家族の来所時には職員から積極的に声をかけるなど、話しやすい環境づくり、家族との関係作りに努めている。あげられた意見は会議で取り上げ職員間で情報共有し、実践に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヵ月に1度運営推進会議を開催している。利用者の動向・活動状況を中心に話し合いを行っている。	日頃の会話からくみ取る他、口数の少ない職員の意見も取り入れられるよう個別面談などで意見を引き出す機会を設けている。連絡帳に日頃のケアでの気づきなどを記入し、職員全員で意見交換・情報共有しており、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの作成を行い、環境・条件の整備を行い、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談や日々の会話を元に個性を生かせる環境・個性を出せる環境作りを進めることで1人ひとりが働きながら一歩を自然と踏み出せるよう進めることが出来た。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新年度になり同市内の施設に挨拶回りをさせて頂いた。また、他事業所の研修にも可能な限り参加させて頂いている。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添い、本人から直に話を聞くことで思いに触れることで信頼関係が築けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の情報を家族より伺いつつ、家族を理解していくことで、出来る限り良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様それぞれに必要なとされる支援がある為、常に声を聞き耳を傾けさせて頂き対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様に寄り添うことで気持ちを共有し、暮らしを共に出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じご家族様と連絡を取り、来荘時には職員から情報を発信することでご家族様より話を頂くことが出来、関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所において利用者様と家族様の考えが一致していないことが多く、あまり支援出来ていない。	家族の協力を得て馴染みの場所への外出を支援している。友人の来訪時には事業所内で交流してもらい他、一緒に外出することもある。全ての希望に対応できない現状はあるが、本人の思いをくみ取り、馴染みの場所へドライブする等、事業所として可能な範囲で関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じ利用者様間に職員が介入する事で孤立を防ぎ、利用者様同士の良好な関係の維持に努めることが出来た。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合こちらからフォローしていく事はサービス提供外と考えられる。しかし、相談を持ちかけられた場合可能な限り力になりたいと思う。必要に応じて臨機応変に対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気なく出た思いを聞き逃さず常に把握し職員間で共有できるよう情報交換を行っている。	新聞や広告、テレビなどの内容、興味のあることや笑顔がみられる話題などを足がかりに、そこから話を広げ、趣味趣向、思いや意向の把握に努めている。目を見て声かけし、気持ちに寄り添い、じっくりと話を聞く時間を作るよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みについて、生活環境においても理解できていないことが多くある。まだまだ把握には至っていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様全員とより多く関わることで1人ひとりを把握することが出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望や家族の要望を取り入れ、また、職員のアイデアなどにより生活の質が上がるように努めている。	家族の意見や職員の日頃の観察からの気づき・アイデアなどを取り入れ、ケアマネジャーを中心に、介護計画を作成している。薬の処方担当医と相談している。定期的なモニタリングの他、変化があれば随時見直し、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録に気づきや家族との連絡は連絡事項に、また、申し送りなど職員間で伝わるように行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様だけでなく家族様の状況に応じサービス内容に捉われ過ぎず、柔軟に支援の幅を広げることが出来た。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ地域資源を把握出来ておらず、支援出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時に希望を聞き、家族様に判断を委ねています。かかりつけ医との関係を築く為、必要に応じ職員が病院に同行し本人様・家族様・かかりつけ医・職員で話し合い適切な医療を受けられるように支援している。	希望のかかりつけ医の受診を支援している。また近隣のクリニックが協力医となり毎月訪問診療がある。定期的に歯科の往診もある。その他の通院介助は、原則家族対応としているが、通院時には日常の様子を記したメモを渡すほか、必要があれば職員が同行し、医療連携をはかっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問時何かあれば常に伝え情報の共有、相談、指導を頂き職員・看護師共に最大限の受診や看護を提供できた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族に了承を得た上で病院に直接面会し、その都度病院関係者との情報交換を行っている。必要に応じ電話にて相談もさせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは導入していないが重度化は当ホームでも進んでおり、ケアマネージャーを中心に家族様、職員が話し合い共有し、必要に応じて担当医に相談しながら支援に取り組んでいる。	重度化した場合の対応については入居時に同意を得ている。本人・家族の意向に添った支援が提供できるよう家族との連絡を密にしている。看取りはしていないが、家族の付き添いや医師の訪問などが可能な場合、希望があれば部屋の提供はしていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常にリスクマネジメントについて話し合い、その中で対応するであろう手当てや初期対応等を学習し訓練している。しかし、まだまだ実践力を身に付けるまでは至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や会議での話し合いを行うことで全職員が対応出来るようにしている。しかし、地域との協力体制は出来ていない。	半年に一度、日中・夜間想定避難訓練を行っている。避難手順のみならず、利用者の状態や気持ちにも配慮しながら、円滑に安全な避難が行えるよう努めている。食料・水・毛布等3日分の備蓄がある。	災害時の地域との協力体制の構築が課題である。職員が手薄な夜間は特に、避難後の見守りなどを近隣住民にも協力してもらえよう、日頃から地域との関係づくりに努める取り組みに期待したい。

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛けをユニット内で共有する事で人格の尊重や誇り・プライバシーを損ねない対応を常に心掛けている。	年長者への敬意を払いつつ、本人が理解しやすい簡潔な言葉で伝えるなど、個々にあった声かけを重視している。利用者間の会話でも話題により気分を害する方もいるため、その際は職員がさりげなく間に入るなど、プライバシーに配慮しつつ利用者間の円滑な関係が築けるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴と同意を基本とし常に本人様の声に耳を傾け、出来る限り対応するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースを日々の対応の中で理解し、常に思いを聞き望むあり方を出来る限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日違う衣類を着用して頂く事で気分転換やおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けを利用者様、職員が共同で行っている。日常の会話の中で好みを聞き出し、メニューに変更を出来るだけ行わないように注意しながら好みの物を提供できている。	栄養士が作成した献立に沿い、朝夕と休日は手作りし、配膳や下膳を利用者と行っている。畑ではナス、キュウリ、オクラ、みつば、イチジク等の野菜を栽培し利用者で収穫して食卓に取り入れている。その他、寿司や蕎麦など利用者の好みの外食に出かける等、食を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューを提供し摂取して頂いています。水分においては嗜好調査をその都度行い1日の摂取量を平均1、5ℓ以上まで達成する事が出来た。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が付き添い口腔ケアを行って頂く事で口腔の清潔を保って頂けている。出来ない所は職員が支援している。		

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとり排泄パターンを調査しトイレでの排泄が行えるよう支援した。結果日中のおむつの廃棄が全く見られない日もあった。	排泄記録を付け排泄パターンを把握している。少し早めの声掛けや個々に合わせたタイミングでの誘導をすることで、おむつ使用を減らし、トイレでの自立した排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、食事の3点からそれぞれ便秘予防に取り組んだ。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を個人に伺うことで個人のタイミングで支援出来ている。	1対1の支援を基本とし、ゆっくりと入浴している。回数や時間帯は本人の希望や状況に合わせ柔軟に対応している。湯温や入浴剤等も個々の希望に合わせたきめ細やかな対応をしている。特殊浴槽完備で重度化した方も利用可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	通常の時間に決まりを設けず、日没時間やご本人様の希望に添った時間に休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会議にて薬1つひとつ名前と効果を読み上げ職員全員で理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々様々なレクリエーションを取り入れる事で気分転換の機会を多く提供している。また、日々の生活の中で洗濯たたみや食器拭きといった日常動作を役割として持っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望は聞けることが出来てはいるが、全てに対応できている訳ではない。もっと家族と密になり外出の幅を広げる必要がある。	春秋の気候のよい時期には、パラ園や近隣の神社へあじさいの見学、日光への遠足など、積極的に外出の機会を設けている。また、利用者の希望を聞き、道の駅や回転寿司への外食など、人手のある日には日常的に外出支援を取り入れるよう努めている。	

グループホームおしはらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のスーパーマーケットに同行しお金を所持して頂き買い物を行って頂けている。しかしながら定期的にはまだ行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様1人ひとりが家族に手紙を書き暑中見舞いや年賀はがきを出されている。その他必要に応じて電話も対応出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境を最大限に利用し、ホール内に外の風を入れたり、ホール内に花を置いたり季節感を常に感じて頂けるよう常に職員全員で配慮している。	吹き抜けのある広いホールは見通しがよく、和風の落ち着いた照明で統一され、暖かみのある雰囲気となっている。床暖房も完備されている。随所に介助しやすい工夫がなされたトイレや浴室は、広く清潔感がある。玄関には季節の飾りや利用者の作品が展示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各テーブルごとに気の合う方同士で過ごして頂き、居室は個人の空間として常に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様それぞれに個性がある為、その個性に合わせた対応を家族様と常に相談し工夫できている。	ベッド、エアコン、照明、カーテン、洗面台、押入が備え付けられている。その他、持ち込みは自由で、使い慣れた椅子や机、冷蔵庫などの家具、写真や趣味の品、装飾など馴染みのものが配され、それぞれ個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活において行っていたであろう洗濯や食事準備・片付け、部屋の掃除といった役割を生活に取り入れる事でより自立した生活が送れるよう支援している。		